

## 熊本県病院薬剤師会 学術フォーラムを開催しました！

学術委員会

2024年3月16日（土）に令和5年度熊本県病院薬剤師会学術フォーラムを開催いたしました。令和4年度に熊本県病院薬剤師会の会員の皆様に日頃の成果を発表していただく機会とともに情報交換や議論する場となるよう、「学術研究発表会」として第1回を開催しましたが、今年度は、会の名称を「学術フォーラム」へ変更いたしました。会の内容は一般口演①および②、さらにシンポジウムと3部構成とし、演者も司会も参加者も“ALL”熊本県病院薬剤師会会員で開催いたしました。集合研修のみの形式での開催でしたが、土曜日の午後にも関わらず108名の先生方にご参加いただきました。

一般口演①では、4名の先生方よりご発表いただきました。1 演題目は熊本赤十字病院の古庄先生より「血液培養迅速同定法の導入が抗菌薬使用状況とTDM実施に及ぼす影響」、2 演題目は済生会熊本病院の今村先生より「ETLと病院総合医とのプレカンファレンスを活用した急性期病院におけるポリファーマシーに対する取り組み」、3 演題目は朝日野総合病院の内田先生より「医薬品流通制限下における持参薬有効活用と薬剤師主導の切替処方案作成」、4 演題目は熊本大学病院の高林先生より「院内フォーミュラ（指針）の策定と導入効果」のテーマにてご発表いただきました。それぞれとても興味深い内容のご発表で、会場からの多くの質問もあがっていました。

一般口演②では、業務支援委員会委員長の山室先生と、地域連携推進委員会委員長の畑本先生よりそれぞれの委員会の活動報告も含めてご発表いただきました。

山室先生からは現在、PBPM作成・運用において熊本市民病院における事例提示とともに熊本県病院薬剤師会HPでの各施設のPBPM公開予定であること、また病院薬剤師が診療報酬等で直面している課題や薬剤師卒直後教育におけるOJTにPBPM運用が活用していけるのではないかとのご発表でした。

畑本先生からは熊本県における医療連携（病院薬剤師間の連携、保険薬局薬剤師との連携）における薬剤管理サマリーの実態調査の報告がありました。薬剤管理サマリーを実施していない理由の一つにマンパワー不足がある一方で、薬剤師数が少ない施設でも薬剤管理サマリーが必要な患者に絞って実施している施設もあり、施設において方針を決めることで実施可能となることが紹介されました。またシームレスな連携を目指す上で薬剤サマリーの内容が重要であり適正な薬物治療支援につながるのご発表でした。

シンポジウムでは、「薬剤管理サマリーのプログレス 拡大する医療連携の輪」をテーマに各施設の様々な薬剤管理サマリーへの取り組みをご発表いただきました。

まず、御幸病院の森先生から「薬剤管理サマリー 日本病院薬剤師会の取り組み」と題して、日本病院薬剤師会療養病床委員会で実施した「薬剤管理サマリーの利活用に関するアンケート調査」結果をご紹介いただき、「今回の入院の目的・病名等」「入院中の薬学的管理・支援に関する経過」等実情に応じた変更が行われたことを説明して頂きました。また、自施設での薬剤管理サマリーによる情報提供の取り組みもご発表いただきました。

熊本機能病院の浦部先生からは「心不全版薬剤管理サマリーによる薬薬連携への取り組み」と題して、管理目標など心不全治療フォローに必要な項目を追記した薬剤情報提供書を紹介して頂きました。心不全管理に薬剤を導入していない場合の理由の記載も重要であるとのこと発表でした。

熊本市民病院の早坂先生からは「医療的ケア児に対する退院時薬剤情報提供の取り組み」と題して、小児で多剤併用が行われた症例を元に小児在宅治療での連携を紹介して頂きました。

熊本赤十字病院の岩田先生からは「せん妄の薬物療法における退院時薬剤サマリーの活用とその先に見えたもの」と題して、自施設で早期から導入された DELTA プログラムを紹介して頂き、転院先まで巻き込んだ、せん妄に対する多職種での取り組みについてご紹介いただきました。

武蔵ヶ丘病院の高野先生からは「薬剤管理サマリー（退院時薬剤情報提供書）に関するアンケート調査～シームレスな薬薬連携を目指して～」と題して、自施設より送った薬剤管理サマリーについて保険薬局や介護施設等を対象としたアンケート調査の結果をご紹介いただきました。

最後に総合討論が行われ、ここでも多くの質問をいただき活発な議論が行われました。薬剤管理サマリー等での薬薬連携の重要性を再認識したシンポジウムでした。

今回の学術フォーラムは3時間にわたり開催しましたが、ご発表いただいた先生方、多くの質問をいただいた先生方のおかげで、盛会に終了いたしました。会の終了後は多くの先生方に会場の片付けもお手伝いいただき感謝申し上げます。フォーラム終了後に多くの先生方がそれぞれ話されていた光景は会員同士の横のつながりを作る一助にもなったのではないかと感じています。今回より一般口演の中から学術研究奨励賞の選考を行い、理事の先生方の厳正なる審査の結果、熊本赤十字病院の古庄先生が受賞されました。学術フォーラムは今後も続けていく予定としております。次回も、多くの先生方のご発表、ご参加を心よりお待ちしております。学術委員会では、今後も会員の皆様に有意義な研修会を企画してまいりますので、引き続きご参加とご支援をお願いいたします。

< 齋藤会長 学術フォーラム 開会のご挨拶 >



< 学術研究奨励賞 熊本赤十字病院 古庄弘和先生 情報交換会にて >

